

保育所 みのり愛児園

「いのち」の大切さや感謝のこころを学ぶ

広島市の保育所みのり愛児園は 浄土真宗本願寺派のお寺の保育園で、昭和34年に川内名産広島菜農家の預かり保育からスタートしました。園訓は「なかよく やさしく げんきよく」、園の目標は、「仏の教えを通して、命の尊さを知り、自然の恵みに感謝する心や思いやりを持つ」などです。

保育所の概要

■ 名称	社会福祉法人 川内福祉会 保育所みのり愛児園
■ 所在地	広島市安佐南区川内3丁目23番27号
■ 園児数・職員数	園児数:170名 職員数:40名
■ 代表者	園長 福島 ニール 圭治
■ 電話	082-877-5970
■ FAX	082-877-5388

保育所 みのり愛児園



広島県

食育活動の概要

☀ 活動の動機・目的

昭和34年の開園当初から菜園活動に取り組んでいます。当時、園の周りは畑ばかりで、自然に体験ができており、それが自然と「食育」に繋がっていました。園の周りの畑は徐々に減ってきていますが、食材が育つ過程を知ることにより、食に係わるいろんな人たちへ感謝の気持ちを持って欲しいという思いから、50年以上続く体験活動に現在も取り組んでいます。「いのち」をいただくことにより、自分の「いのち」があることを子どもの頃から、教える事が大切だと考えています。

☀ 活動の紹介

園では、保育の年間計画を立てていますが、特に「食育」を意識して計画を立てているのではなく、自然と「食育」に繋がっています。

平成23年度の年間計画における指導目標 (抜粋)

- 3歳児・・食べる意欲を育てる、食事に関心を持つ
食材の名前を知る
- 4歳児・・自分たちで作って食べる喜びを知る
友達と一緒に楽しく食事をする
- 5歳児・・地域で培われた食文化を体験し郷土への関心を持つ
体験をすることで感謝の気持ちと態度を培う



農業体験では、3歳児はプランターでミニトマトの栽培、4歳児はプランターで枝豆の栽培、5歳児はプランターで稲作りや畑で広島菜の栽培などに取り組んでいます。

また、園庭ですいかを栽培し、夏には収穫したすいかで「すいか割り」を楽しみました。

これまでの成果・課題

入園当初と比べると、子ども達に食べ物を大切にしようとする気持ちが出て来ています。自分で育てたものは、嫌いなものでも食べてみようという気持ちになるようで、頑張った結果、食べられるようになって、それが大きな自信に繋がっているようです。経験があるのとならないのでは大きく違ってきます。経験したことが大きな力となっています。

子どもの自主的な発想で菜園活動に取り組んで行きたいと考えていますが、時間的な余裕がなく、保育士が決めた計画に沿った取り組みとなっています。

今後の構想

食育は、栄養的な面だけの食育ではなく、それ以前の段階からの食育が必要で、引き続き、今まで同様の取組を地域の方々のご協力のもと、進めて行きたいと思っています。

また、保護者の方が留守にしている間、一人でも何かを食べることができるよう、おやつの時間に子どもでもできる「簡単クッキング」を教えており、「生きる力」を身につけさせたいと考えています。

稲刈りと広島菜の植え付けの様子（平成23年10月12日）

この日は、5歳児27名が、稲刈りと広島菜の植え付けを行いました。
はさみを使って稲を刈りました。

園庭のプランターで栽培した稲



うまく切れ
ないなあ～



広島菜の植え付け



大きく育っ
てね！



近くの田んぼで刈った稲は、
みんなで園に持って帰りました。



園から依頼があり、
稲を残し、広島菜の
畑も確保しました。
子どもたちのために、
協力させてもらって
います。

（升本さん）



お世話になった升本さんにお礼のご挨拶

園長先生の思い

今回の稲刈りの時に、田んぼにたくさんの蛙がいました。その蛙を「踏んではダメ！」と子ども達に言いました。どんな小さな生き物にも「いのち」があり、それを大切にする事を教えることが出来るのも農業体験の良さだと思っています。

子どもたちの心身ともに健やかな成長を願いながら、保育事業に頑張っている行きたいと思っています。



福島園長先生と荒木保育士